



● 蚊が媒介する感染症

病原体を保有する蚊に刺されることによって起こる感染症を蚊媒介性感染症といいます。一昨年、70年ぶりに国内感染が確認されたデング熱や、いま流行が危惧されているジカ熱も蚊媒介性感染症です。

発行：まるやまファミリークリニック

Introduction of Staff

スタッフ紹介



管理事務 坂牧 祥隆

事務作業や当クリニックとお取引のある会社・事業所様に関わる業務が主体のため、院内で皆さまと接する機会はありませんが、黒子として陰ながらスタッフのサポートに徹することを心掛け、日々仕事をしています。当クリニックに勤務し、まだ2年弱の若輩者ではありますが、どうぞよろしくお願ひします。



健康便り



お知らせ

人間ドック・脳ドック・大腸ドック・肺ドック・認知症ドック 受付中！  
詳しくはスタッフまでお気軽にご相談ください。



院長の巻頭言

**春** とはいっても朝夕はまだまだ冷え込みますが、お元気にされていますか。今年も早や2ヶ月が過ぎました。今年度は超エルニーニョ現象のため暖冬になり、冬らしくない冬だった印象があります。この異常気象による気温の上昇が現在われわれの健康に大きな被害を及ぼしています。

一つ目は杉花粉症ですが、NPO法人 花粉情報協会の予測によりますと、2016年の春のスギ・ヒノキ花粉飛散総数は、東北部、関東南部、北陸以外の地域は2015年を上回り、特に近畿から九州にかけては前年の2倍から3倍になりそうです。去年は花粉飛散量が少なかったため、比較すると今年はかなり多くなりますね。飯田下伊那地方では昨年の2倍量と推定されています。スギ花粉の飛散開始時期ですが、今年の冬はエルニーニョの影響があり暖冬の見込みなので、例年よりも早く、九州、中国、四国はだいたい2月上旬、関東から東海、近畿にかけては2月中旬、東北部から北陸では2月下旬から3月上旬との予想です。飯田下伊那では2月中旬から飛散が始まっており、3月にはピークを迎えます。私は中学時代から杉花粉症に悩まされています。現在杉花粉症の根治療法として当クリニックでもスギ花粉アレルギー舌下免疫療法を行っています。長丁場な治療ですが、興味のある方は遠慮なくお越しください。

二つ目は、インフルエンザの流行時期が例年より遅れて、2月から急に患者数が増えたことです。国立感染症研究所の報告では、2016年第7週の定点当たり報告数は37.16(患者報告数184,176人)となり、長野県は41.43と前週の報告数よりも増加がみられ警報レベルになりました。この10年間で2番目に多い年になってしまいました。国内のインフルエンザウイルスの検出状況を見ると、直近の5週間(2016年第3週～2016年第7週)ではAH1pdm09(2009年の新型インフルエンザA)の検出割合が多く、次いでB型、AH3亜型の順です。

飯田下伊那地方ではインフルエンザのため学級閉鎖した小中学校が2月後半から増えてきています。3月になってもインフルエンザが流行するなんて本当に変な年ですね。ちなみに今年は閏年(うるうどし)ですが、この年は天変地異が多いと云われています。専門機関の予測ではインフルエンザの流行は徐々に下火になっていきますが、5月まで続くようですから、皆さん手洗いやうがいをお忘れなく。

この冬はロシアでもインフルエンザが流行し、503人が死亡したと云います。2009年に出現した新型AH1pdm09を中心に広がったようです。新型が登場するまでは、AH1型は「Aソ連型」が流行していましたが、ウイルスの名前はソ連時代を含めロシアでは通用しません。日本に「Aソ連型」という呼び名があると話す相手にはびっくりされます。保健省インフルエンザ研究所のリュドミラ・ツイバロフ副所長によると、「Aソ連型」とは1977年に現れ、ソ連地域で流行し、世界に広がったウイルスです。ちなみにこのAソ連型ウイルスは研究所に保存されていたウイルスが何らかの理由で流出したことが原因といわれています。ロシアの医学会では、最初の患者が確認された極東の町にちなんで、「Aハバロフスク型77」と呼ぶそうです。しかしこれもロシアでは広くは知られているわけではありません。日本と違い一般的には感染したウイルスの型まで気にしていないようです。そう考えると日本人は本当に健康知識が高い国民だと思います。

3月は卒業式や転勤など移動の時期です。年度末として区切りの時期ですから気持ちをここで一度整理してみることが大切ですね。花粉症やインフルエンザに負けないで頑張りましょう。



まるやまファミリークリニック院長

医学博士 丸山 哲弘

認知症ドックはじめました

早期認知機能障害(MCI)や認知症を  
血液検査で早期発見



認知症ドックは早期認知機能障害(MCI)の発見や、認知症になりやすいリスクが高い方を発掘し、認知症の予防に今から何をすべきか指導することを目的としています。

最近、物忘れが多くなってきたと感じたら、まずは認知症の疑いがあるかどうかを調べてみる事が大切です。



# 蚊が媒介する感染症

## いま話題のジカ熱とは？

**ジカ熱**はジカウイルスによる蚊媒介性感染症で、ヒトシマカやネッタシマカに媒介されます。

過去10年間にミクロネシアのヤップ島、ポリネシアのタヒチ島でアウトブレイクがあり、2015年からはブラジルを中心に中南米で流行しています。2016年1月現在は、アジア、アフリカ、オセアニア、中南米でジカ熱に感染する可能性があり、日本でもこれまでに数例の輸入例が報告されています。

### ジカ熱の症例が報告された地域



ジカウイルスは、1947年にウガンダのジカ森林のアカゲザルから初めて分離されました。

近年では、2007年にミクロネシア連邦で流行。2013年にはフランス領ポリネシアで約1万人の感染が報告され、2015年にはブラジルを含む南アフリカ大陸での流行が発生しました。

2016年1月には、世界保健機関（WHO）は、感染が確認された地域が24に上ると発表。広い範囲にわたって感染が広がっており、今後1年間で、感染者が「300万人から400万人」に爆発的に増加すると警告しています。

## ジカ熱の症状と特徴

**ウイルス**の潜伏期間は2日～7日ほどと言われており、発症後は微熱や頭痛、関節炎、皮疹、眼球結膜充血などが起こります。通常、これらの症状は軽く、4～7日ほど続いて治ります。一昨年、70年ぶりに国内感染が確認されたデング熱に比べると症状自体は軽度ですが、感染後のギラン・バレー症候群発症や、妊娠中のジカ熱への感染と胎児の小頭症発症に関連が示唆されています。

## 蚊に刺されることによって感染

ジカウイルスは、デングウイルスと同じフラビウイルス属のウイルスです。ヤブカ属のネッタシマカ、ヒトスジシマカが媒介蚊として確認されており、日本に生息するヒトスジシマカも媒介可能です。

### ヒトスジシマカ



胸部の背面に一本の白い正線とW字状の斑があり、体長は4.5mmほど。通称ヤブカ。デング熱などの伝染病を媒介する。

## 有効な予防ワクチンはありません

### 流行地域で蚊に刺されないことが最も重要

ジカ熱に有効なワクチンはまだありません。予防のためにはジカ熱の流行地域で蚊に刺されないことが最も重要です。ディートなど有効成分が含まれた虫よけスプレーをこまめに使用する、服装はできるだけ皮膚の露出の少ない物を選ぶ、寝る時は蚊帳を使うなど、防蚊対策を心がけましょう。

## ジカ熱と小頭症発症の関連

**現** 在ジカ熱が流行しているブラジルでは小頭症の新生児が増加していることが報告されています。まだジカ熱との関連は科学的には解明されていませんが、小頭症の増加はジカ熱の流行と一致していますので、妊婦の方の流行地域への渡航には十分な注意が必要です。

### 小頭症とはどんな病気か

小頭症にかかると、胎児の時、または出産時の脳と頭蓋骨が月齢に比べて異常に小さく、結果として脳に様々な程度の損傷が生じます。

### 小頭症の子どもには何が起きるのか

深刻な場合は、早期に死亡します。脳が未発達だと、体が適切に機能しません。また知能の発達遅滞も顕著です。

### ジカ熱は性交渉でも感染する可能性がある

先日アメリカでは、性交渉で感染した可能性がある患者14人（うち数名は妊娠中）が報告され、性交渉による感染のリスクに注意を呼びかけています。いずれもパートナーの男性が感染が報告された地域への渡航歴があり、帰国後にはジカ熱の症状がありました。

## 蚊が媒介するその他の感染症

**病** 原体を保有する蚊に刺されることによって起こる感染症を蚊媒介感染症といいます。蚊は人に病気をうつしますが、蚊自身は病気になりません。これらの感染症は主に熱帯、亜熱帯地域で流行しており、以下のようなものが代表的です。

### 1 デング熱

デングウイルスによる感染症でネッタシマカやヒトスジシマカが媒介します。2014年には70年ぶりに国内流行が報告されました。



### 2 マラリア

ハマダラカが媒介となり感染します。以前は日本にも土着マラリアが存在していましたが、現在は撲滅しています。しかし海外から帰国した人が感染した例（いわゆる輸入感染症）が年間100例以上あります。

### 3 チクングニア熱

チクングニアウイルスを持つ蚊に刺されることによって感染が成立します。これまで国内感染例はありませんが、チクングニアウイルスを媒介する蚊のうち、ヒトスジシマカは日本にも生息するため、注意が必要です。

## 当院の設備紹介

### デジタルX線撮影装置



### 高画質なX線画像が撮影可能なレントゲン装置

**デ** ジタルレントゲンはフィルムを使わずIPプレートと呼ばれるセンサーのようなものにX線の強弱を記憶させ、これをスキャンすることによりデジタル画像データとして保存し、コンピュータ上で見ることができます。デジタル化したことにより、常に安定した濃度の高画質なX線画像が得られるので診断精度が向上します。またデジタルレントゲンはX線の被曝量が従来のレントゲン撮影の1/4から1/10程度になりますので、より安心してレントゲン撮影をすることができます。